奉遷申し上げた。

十月一日早朝には、沖・中両宮

係する青年達が神璽を奉安した輦

げた。祭典が終了してお座船に関 新出光会長の出光弘氏をはじめ、

れた。

能楽関係の方々によって演ぜら

た。家々の門には日ノ丸が掲げら

神璽を大島漁船三社丸がお迎えに 先二十七日には沖ノ島まで沖津宮 神々をお迎えし、三宮お揃いにな

って行なわれるもので、これより

ゆき、玄海の荒波の中を中津宮に

崇敬各位多数が参列して玉串を捧 宗像神社復興期成会長出光佐三氏 宮の幟がはためく。 空は快晴であったが風は強い。 宮祭が行なわれた。

ら郡内中学生の相撲大会が行なわ

参拝して境内は賑わった。早朝に

は流鏑馬が奉納され、午前十時か

海上渡御と称されている西日本一

お供をして玄海を巡航する行事が 幸された。この二隻の御座船を中 れて大島港から神湊まで海上を神 の神々が、今年の新造船に奉安さ

神奏街端れから、神璽は車に奉安 りを捧げる姿が印象的であった。 れ、老いた人々が神璽に敬謙な祈 台をかついで神湊街並みを神幸し

地宗像会が団体で参拝された。 げられた。各地から里帰りの参拝 れ、参拝者の無病息災の祈りが捧 二日の祭典には翁舞が福岡喜多流

者も多く、八幡宗像会を始め、各

心に宗像七浦の漁船三百数十隻が

な大漁旗、五色の吹流しをつけて一畑栗組、福岡向陽興産三社の社長

年の御座車は、神湊みなと荘、戸

や、農機具店、自動車の展示、試

乗会などに時の流れを感じさせら

されて一路辺津宮に向われた。今 露店も例年より多く、盆栽業者

快 0

晴

0

り

日

和

n

像

秋季大祭は昔から宗像放生会とも 祭り日和りとなった。

める。この頃から大船団の偉容が をめぐり、神湊に向けて船首を改

大島港を出港した大船団は地ノ島

る。かくして三宮の神々は辺津宮

御巫車の後には多くの供奉車が連

本殿に奉安された。

**合図に秋の第一日祭が流行され** 

正午、空高く鳴り渡る花火数発を

九月三十日夜半まで続いた雨は十

飾り、空の青、海の藍に映えて美一の奉仕による提供であった。

一日早朝にはあがり、秋晴れの

から日頃お詣り出来なかった人々 呼ばれ、郡内はもとより郡外一円

謝の誠を捧げ、恒例の諸行事も賑 今年も多くの人達が参詣され、感 が参詣する習しとなっている。

た。神湊の突端の山上に設けられ がて神璽は神湊の頓宮に奉安され

た頓宮に三宮がお揃いになって頓

熱意のこもったものであった。 は、今回で奉仕員が引退し、次の た。田島青年団奉仕による風俗舞

人達にゆずるという事でひときわ

頓

が慣例によって休みの為、早朝か

一日は郡内小中学校、及び官公庁

ら小中学生を始め、多くの人々が

来ている人々に歓声があがる。や 間近に見えてくる。海岸で拝観に

々しくおこなわれた。

この秋季大祭は、沖、中両宮の

来

雨

あ 祭

が

n

れたいと
原つ郷土出身諸先輩の強い要望による

であろう。この度の総会に於て、宗像会財政硬 に至っている。宗像会の「宗像」は、木年まで 使命を達成したが、社報として継続刊行し今日 関誌A五版「宗像」が発刊された。当社発行

**直化の打開と若返りを画して、会の根本的な面** に再興十九号を世に送った。これは多とすべき

踏えて、有識者各位の意見に沿うことが予当と よつとするのは、かかる戦前戦後に亘る経過を その一面を委ねられ、大社も進んでこれに応え 宗像会が「宗像」の合併を決議し、当社々報に

社報「宗像」が誕生したのは、今より六年前、

二十七年で、戦前発行された宗像を再刊さ

来事と言わなければならない

を了承した。この事は、社報にとって画期的出 報「宗像」に合併する事を決議し、当社もこれ

の新聞形式タブロイド版「宗像」は、一応その

より豊かな紙面とすべきであるとの遠地有識者 かかる二誌は合併し、その長所を補い合って、 容二誌が存する事自体に問題があったと言わな 翻って想うに、宗像郡に「宗像」と題する同内

の示唆を受けた事は、筆者の記憶に新しいとこ

ろである。

改選すると共に、会の機関誌「宗像」を当社々 営について協議を重ねて、規約を変更、役員を

論説

「宗像」

新

発

足

K

あ

たって

此の度、宗像郡宗像会の総会が当社清明殿に於

戦前の「宗像」はA五版であったが、当社では

喜こばしい

れを改めた事は、宗像郡宗像会発展の為に誠に し、抜本的改正案を示して会員諸士に問い、こ に至るまでメスを入れ、正を正とし、非を非と

現在まで社報「宗像」は、各地宗像会の各位、

の変貌を伝えて来たと信ずる。

社報「宗像」は、このように郷土と遠隔地に於 郷土出身諸先輩に宗像大社の折々の姿と、郡内 宗像会の「宗像」を合併すると否とを問わず、

宗像郡宗像会の事務所が当大社に移された事

歌の文句ではないが、急ぐべき場 ぎぬ間に楽しき春は老いやすし」

福岡

ぐ気はないか。〇「若き命の過 でない。もっと静かに香の句を嗅 い、厚質、おせっかい、ゴマす もない先生のお祝いに、お招きを 下さい」の案内状。何のつき合い 十年の先生の祝宴を聞く、ご出席 うでもいいらしい。 〇「勤続二 相。全ガキ連には、松風などはど

茶を喫する一時をやすらぐ。とも

に人生の動と静を味わい、松風の 合を急いで戦い、静坐四畳半裡の 考えるからである。

刊で刊行した事が再刊の経緯である。 研究の結果、時流に則して新聞形式を採用、月

次いで

ければならない。

二年数カ月後、宗像郡に宗像会が結成され、機

会員多数出席のもとに開催せられ、今後の運



### 発 行 所

宗 像 大 社 福岡県宗像郡玄海町 電話 神養 133 署 定価一年送料共 500円

神具、装 結婚式場用品

束

会株社式

井

筒

昭和四十三年十一月

福岡支社 社 京都市下京区油小路通六条北入京都市下京区油小路通六条北入電話。 九四五六 京都 35

山商店、神湊魚岛、勝浦漁岛、大島漁協、福間漁協、

く宗像の秋を惜しみなつかしんだ。ころと喜びにたえない次第である の境をかもしだし、人々は過ぎ行 り大祭が斎行され、この日午後三 くこの秋季大祭は、その間にみな は参拝者の雑踏の中に、一刻静寂|えつつあることは、一重に「道主 にそこはかとなく漂う茶のかおり一つりとなり、年々その参拝者の増 の献茶式が執り行なわれた。境内 時より、郡内滝口社中による恒例 また引き続き三日も午前十時よ かくして今年の秋季大祭も恙く



ーズンたけなわである。

貴」の御神徳の光被しつつあると を合わせ、いまや西日本最大のま と祭、宗像護国神社大祭等の祭典 終了した。海上神幸、放生会と続 宮地丸、海久丸、伸洋丸、海幸丸、福神丸、協栄丸、春日丸組、鐘崎第一幸丸、新協組、干歳丸、代栄水産、誠幸丸、新興丸、宗像タクシー、朝日タクシー、山本又吉、七田直、田久氏子中、宗像タクシー、朝日タクシー、山本又吉、七田直、田久氏子中、 春日丸、代栄丸、威徳丸、金剛丸、日吉覚、船越喜三郎、山口 子、内山緑地建設、他崇敬各位 玄梅ゴルフ場、宮地嶽神社、小笠原美広、 シーズンを迎える 松、河辺嘉十郎、福崎吉三郎、冲西保幸、河辺治、

八尋正男、我野美栄

大和田刷、

(敬称略順不同)

# 華

-お申し込み、予約は早目に-

う。美しい管物姿のお嬢さん達で し、その横をつぎの組が式場に向して、挙式のお申込は早目にしてい 中し、三十分間隔でおこなわれて なカップルが誕生している。 加しており、既に百組からの幸せ 秋も深まり、今各地では結婚式シーる。挙式、記念撮影がすむと披露 境内は花やいだ。雰囲気に包まれ いる。式を終えた組が記念撮影を 大安吉日や、日曜日には挙式が集一この傾向が強まると考えられる。 今年は昨年に比べて挙式数が増

ただきたいと係では語っている。 され、挙式者も年々増えているの ーの増加と旅館街が披露宴の受入 ある。神奏まで車で五分、マイカ 宗像郡内には次々と新団地が造成 れ態勢を備えてきたので、今後も 宴は神溪で行つのが近頃の傾向で

### 七 五三の お L 5 せ

く鎌倉時代より行なわれ、それぞ ってまいりました。このお祭は古 長を祝う七・五・三まつりが近ま 菊の香と共に皆様のお子様の成 えましよう。 れることは誠に意義あることと言

長を神さまにお祈りし、お祝いし れの時期にわが子のすこやかな成 本年も大社では左記の通り祭典

を行ないますので御案内甲し上げ

気と飲み気だけの同じ 顔の二面

ます宗像大神の大前で可愛いお子 この機会に国民道の祖神であり 十一月十四日(木曜)より 十七日(日曜)まで

は何等抵触するところはない。 ように郷土機関誘的性格と、社報としての使命 宣揚の事は重大と言わなければならない。この として、復興の途を邁進している秋、この神徳 宗像大社が伊勢、熱田等の名社に次ぐ尊貴な社 責務を背負っている。

遵守している姿は、全国に数少い例と言えよ 明らかである。現在に於てもその美しい伝統を 保持して精神的紐帯を堅守し得た事は、歴史上 て結束し、外敵の侵攻を防ぎ、よく郡内の和を

り、百面相が横行して天下は泰平

頂いて、いたみ入る。世の中は広

神の神徳を広く一般崇敬者各位に伝える大きな ける郷土出身者のパイプであると共に、宗像大 上代宗像郡が神郡とされ、宗像大社を中心とし 各位の積極的客稿を紙上からお願いする次第で であってはならない。相互の意見の交流こそが 寄せられている。機関誌はあくまでも一方交通 機関誌「宗像」の新発足にあたって、紙面 も故なしとしない。この度の両紙の合併による 郷土と各位の親密感を育む一つの基盤である。 の充実と宗像会役員による運営に多大の期待が

協、鐘崎漁協、地ノ島漁協、玄海魚市場、魚屋旅館、玄海旅館 郎、豊村酒造(有限)、翁酒造(株)、井ノ口酒販(株)、中 盛大に姦行する事が出来ました。ここに厚く御礼申し上げます。 秋季大祭には、崇敬者各位の御高配を賜りおかげをもちまして 勝屋酒造店(合名)伊豆本店(合資)、驚頭酒造場、門司松次 宗像大社々務本局 津屋崎漁

#### 阿 蒙 少 言

開坐聴松風」茶室の一幅であ

|様の行末え永い将来の幸福を祈ら| やげを貰って、えびす顔。 「結婚 の戦線に、決斗寸前のさくやき。 式はよかったが、巫女さんボクの において人目にかけ、それが安価 きなもんですから」とミエ夫人の 動、ともに松風を聴くことは至難 茶室の静、命がけの決戦開幕の らっぽだった」とこぼす顔。食い 盃には、酒をつぐまねだけで、か せたい対抗心理、マーケットの買 に変った日はカゴの下に入れる。 せりふ。高い野菜を買物カゴの上 である。〇「高くても主人が好 かく松風が聴けないのが茶道で る。ふくささばきに捉われたり、 い、心をおちつけて」これは夜暗 ある。いっそミニスカートを切断 あたりの人目を気にかけたり、な さん、一寸ばかりいかすな」おみ 遠い奥さまがた。〇「兄貴の嫁 く。松風を聴く茶室の婦性には縁 物風景にも、さまざまな風が吹 ケチなくせにケチでないように見 風さわやかに去来。これは難し して、背後に立つ禅坊主に警策の 一撃を喰わせる決断が起れば、松

台 雲 しい謎をふくんでいる。秋はもの さわやかさを感ずる妙機だが、難

を思わせる。

### 第二元回 宗 毎月十五日と切 像 大 社

パス用地たはやすく対る 約束は含ひしきものよ青稲田バイ  $\mathbb{H}$ 重なれる事故死聞きつゝ幸せの脆

殉教の徒をしのばせてそこここに (長崎の旅) 井原 元彦

血の色に咲く曼珠沙華かな 庭隅に幽(ひそ)と咲きゐし秋海 しかと握り給う温き掌もて 難聴となりし身告ぐれば両の手を 勝浦 宮 '田 片山 永島 文子 朔子

棠夢の跡こよ写真の前に の実甘く味つく 宗像大社秋の大祭始まりぬ庭の柿 吉 武 原田 村山田 吉田佐市郎 松代 写らん

はしずけき松風の音 中下車せし甲斐のありたり 立ち止りしばし見取るゝ白鷺城途 日の昏れの畑の竹籔ゆれにゆれ山 飯 吉 武 原田 塚 萩本 IJ

一掌の中の鳩のからだの冷えゆきて 閉じし険を静かに見つむ 折 尾 古岡ますみ

るは秋日和のみ と山の秋も深めり 木洩れ日に花水引の花淡くふるさ 緑側で鏡とにらみ染髪にただ見守 大 大井 井 安部 安部 静子 重郎

のあとは小さき実をつけ つく上りあぐみて 一瞬に舟流されぬ早鞆の瀬を上り 一日ごと秋は深みて花萩の散りて 門司 永島 哲夫

明日は秋空晴れ渡るらむ 夜の更けの村の灯のいたく登めば に自身を語る 一人一人大将格の同窓会思い思い 遠 津屋崎 麦野 賀 長畑 時雄 房江 はれ

のぶは在りしなつかしの俤(かけ 夢の花にも風情ありけり みまつりに広前に伏す遺族びとし 花がめにさしてつくづく眺むれば (護国神社秋季大祭に) 吉 田 占部 江崎 由久 琴子 我が心さみしきまゝに手折りたり な朝なに映えつかわりつ 錦なす深山はいまぞさかりなり朝 し雫とどめまほしき 東 田 島 島 末安 中野

野分け過ぎ庭面に散りし菊花とり 田 島 楠本

「もうかへるの」病む叔母の声耳

### 献 詠 歌

詠草到着順 木原ふさ子

の輝きしばし見つめつ 旅の吾子明日は鳴らむ此の宵の星 さ思いぬ秋澄みし日に 大井吉田 杏子

向ひて一日稲刈る 空澄みて紅葉や黄葉に美しき山に 若き日にぬぎし白衣を五十路にて 原 町 八波 大 井 吉田 五月 和子

心を病める人に捧けん あわなむ今日の集ひに 運ぶ足おのづと軽し同窓のかたり 大 井 村山

沖の島昔を写す古鏡尊き人の影も 福間森 久留米 篠田太郎坊

嫁してより領笥に終みし亡母の手 ゅくしゅくとして色づきてゆく 望に実のれる稲田は語らずてし 宮田 北原 君子

菊つくることただひとつたの 形美し鴬の在り 名 残 竹原 円

あの星の彼方にとほく戦乱の間に おののくベトナムあるも に定年の友はいつも家に居 Ш 久 小方

繁き算に佇つ 余韻嫋々夕つゝ空は茜する虫の音 Ш 熊 小野角次郎

葉鶏頭に注ぐ秋雨なかめつ、心泌 みじみし夕碧の風 Ш 熊 小野かをる

一日の仕事を終えて家路つく親を Ш 島 山田

迎えて子の声響く

佐 賀 都渡 耕喜

菊一輪朝つゆきらめつ静かなりこ れてたゝきて過ぎる真夜中の雹 いたづらに吾が家の屋根にたわむ 京宮本

何気なく過ぎにし日々はかえらな むしばしを惜む秋の深みに 崎 鵜池

道べの花に光るしらつゆ

が、神主まるもうけとは言いませ

「坊主まるもつけとは言います りません。私が立候補します」と ひととおりではなかったらしい。

勇ましくも名のりを上げたのが、

お寺の嬢さん。

と神主の伜の結婚式となった次第 てしまえ」、適齢期二娘を持つ父

こくに、たぐい稀なお寺の娘

してみる。

「まだ早い、何を言うか、断っ

レーキを呼ぶ。

で、神主まるもうけとなりまし ん。ところが、この度はさかさま

先に賛成したのが、神主たるおや

「それなら、なおよい」と真っ

じである。勿論、本人同志も意志

緣

0

あ

あるお宮の神主の息子の結婚の話 である。 縁は異なもの味なもの、とは古

知れぬとの計算だった。 の中に、適当な候補者があるかもば、部下の慶事を喜ばぬわけには さがしを頼んだ。たくさんの弟子 変りはない。お茶の先生に伜の嫁 い言い草だが、現実はその通りに 「お弟子さんをさがすまでもあーけた重役夫人の気のつかい方は、

十一月のまつり 日 願祭 明治祭 勅祭請願祈 西

興隆を祈念する。特に本年は明治 展を記念して各地で盛大な行事が 日本が近代国家としての今日の発 元年より数えて百年目にあたり、 び、今日の平和を感謝し、国家の 偉業を為しとげた先人の努力を偲 もとの明治節にあたり、明治の

像

Ξ

日

めとなって秋の祭りを楽しむ。村 於て行なわれる。当日は村内漁止 四、五日 大島の沖津宮遥拝所と中津宮に 沖·中両宮 秋季大祭

小中学生相撲大会等が開かれて賑 内各部落の出演による演芸大会、 今月の言葉

なり。汝性は善也と云うべし」 馬印となりて、強敵をくたくは勇一る。波止場には既に七浦から参集 て遁がせしむるは仁なり。羽柴の 難にあわざるは智なり。鯰を抑え れて腰に携へ、あるは駒を出して の軽く、中空しくして無欲なれ 暑を払う徳もなし。しかれども気 「瓢々汝真瓜の位もなく、西瓜の しめり。汝瓜の類にして庖丁の 仙人も汝を友として、酒を容 の神職も本年からは海上の神事に なりで輩台を捧持する。また供奉 一衣、白鉢巻の軽装に改めて御供す |中津宮御神璽=大島漁協で、両組 した大小の漁船が波切御幣を船首 相応しく、昨年迄の冠、斎服を白 白衣、白袴、白鉢巻と清々しい身 合長と夫々四名づつの奉仕員は、 奉仕は沖津宮御神璽=鐘崎漁協、

瓢によせる処世訓また味わうべき てそれに賛をしたものである。一 うかうかと暮らすようなる瓢箪 大徳寺の大綱和尚が熈箪を書い

も胸のあたりにしめくくりあり。

共に最近新造の優秀船である。

社の大幟、紅白の御長手が今日の

宗

昭和43年11月 金曜日

> の疎通きわめて順調で、神主対坊 やじである。おしつけられてみれ 世間なみの人種でない。厄介なお 主の縁談はめでたく成立を見たの 石油会社の重役、相手がどちらも 困ったのは、仲人役を頼まれた 談宗 話 室像

いかない。厄介な仲人役を引きう 縁結びであった。 方がまちがいで、きわめて自然なれてにべもなく突きはねた。ウバ この辺で話材を転じて、適齢期ならぬ筋道は、わかり過ぎる程わ

である。翳いた人もあろう。お寺 親は、寒君に持ち込まれた緑 談 がにくい。そして冷静が進めて華 の中場にあって、掌中の玉など、 となれば、娘の婿がく自ら戒めて良縁に鵜の目鷹の目 こよなく可愛い、矛 燭の典にゴールイン

の日常。 い動きがある。嫁がせた後の両親 父母の心理に、かくも似て似な

って。これから家がさびしくなっ まるもうけの神主の伜と、まる

さに「まるもうけ」である。

白く砕けた飛沫が容赦なく船内を | 見る思いである。やがて、鐘崎沖

ぬらす。<br />
然し日頃玄海の荒海に<br />
鍛一から大きく<br />
迂廻して一路神湊へと

えぬいた宗像旗民にとっては、こ

進路を向ける。神褒の海岸は、こ

嬢を放したくない父親の心情がブ たら悲しいと言う心の動きがあっ 嫁に欲しいと申込んでくる相手 れる様子を見てきた。今その母 未練がましい感傷は禁物と、深 た。母も同じ 気持に 駆り立てらる。それで結構と、両家の親達は 路にハネムーンの旅をつづけてい

き方は仕事に徹すること。女房は を忘れないこと」と ム主義に溺れてはならぬ。男の生 その仕事に支障のないよう、内助 こんな説教をしてみたい気持が

一狸住庵茶話—

「お帰りなさいませ」

大玄関へかけて人影がはしり出

も子もない一人者と聴き、克忠は だ。それに熊三は孤児で育ち、親 の上もない栄誉である。熊三はう 武人として参戦出来ることは、こ

れしさの余り、おどり廻って喜ん

山賊にとってみれば、一人前の よし、熊三ついて参れ

とお宮の住人に言わすれば、繁くを、お勤めから帰った夕刻聞かされ残りになって、嘆きの母になり ザクラにならぬ間に、嫁がせねば U 気持はある。然し売 父親心理である。 盾と片づけられない

の娘を持つ親の婚姻心理を、解剖 かっている。然し手塩にかけた愛 適当に結婚しなければ、売れ残っ 損の相手の掌中の玉は、只今四国 青春の頃、適当な相手があったら 嫁がせねばならぬ。かって自身が たくない心意気がハッスルする。

母親はどうか、同じ の気持は全く同じだろう。よかっ て。貰った方は、これに反してま た良縁に娘の幸福の門出を見送

幸福の将来を念ずるのみ。 「この頃流行の軽薄なマイホー

ある。それはお寺お宮の親たちば かりではなかろう。

#### 日 本 勇 最 壮 な 大 海 0 18

1

# 宗像大社神迎え行なわ

れる

行する。空には新聞、テレビの取

に船団は編成され、東に向けて進

景は、新聞、テレビに大きく報道 一行が気遣われたが、一夜明けると 数も増え、その勇壮な行事の情 日は、終日風雨が強く、翌日の斎 深い行事となっている。大祭の前 く、広く一般にもすっかり名じみ されて、今では郡内ばかりではな 今年も盛大に執り行なわれた。 に御迎えする恒例の海上神幸は、 宮、中津宮両宮の御神璽を辺津宮 午前八時半、中津宮に於て出御祭 ぼれ、その懸念も杞憂に終った。 雨は上り、秋の日射しが雲間にこ れたものであるが、年々参加船 十月一日、放生会の初日に沖津

の先導船から打鳴らされる大太鼓した供奉船が次々と後に続く。港 ためいている。午前九時半、花火す。波止場に見送りの人々から、 晴の舞台を迎えて誇らしく風には の打上げと共に大鳥罹出発、先発 | 期せずして拍手が起る。満を持 | ことながら、その勇壮な、そして

始動開始、御座船が静かに動き出



ながら源平の合戦を目のあたりに 色彩豊かな海上のパレードは、さ 玄海の洋上に展開される。例年の い、空海一体の一大ペーセントが





式 豊 か 0 な P 戦 Š 3 相 撲

古

がり、神門前に参進、人馬共にお 馬、騎手三名が威風堂々と馬に跨 た。当日は絶好の秋日和、まず出 馬場の両側は、この古式豊かな神 抜いを受ける。 通り、十月二日午前八時斎行され 当社秋季大祭流鏑馬神事は例年 であった。 米原 花田 吉里里郎 騎手

矢が騎手に渡され、「始め」の合 かせながら馬場を軽く足馴らしゝ 賑う。検見の後、流鏑馬旗をなび それぐ甲矢を放ち、次に再び同 矢を放つ、続いて二番、三番騎が 図で一番騎颯爽と疾駆しつゝ的に 定刻、神前に供えられた御弓、忌 て待機する。 事をぜひとも見ようとする人々で 大いに喜こばせた。 け、近郷からつめかけた参観者を 達は、若さ溢れる熱戦を繰りひろ 連主催による中学校対抗の奉納相 撲大会が盛大に催された。 郡内六中学校から選ばれた少年 境内相撲場に於いては、郡中体

雄壮な騎射の勇姿、その一挙一動 を見守る観衆、境内の馬場は熱気 じ行程と作法で乙矢が射られた。 今年もこの伝統ある流鏑馬神事が っとわき上る歓呼。こうして無事 で満ちる。矢が的に命中する。と RKB、TNC、県畿、 参加数は三六名(郡内各校各学年 | 厶、一六八名(郡内六校) 個人 司旗、出光旗、KBC旗を始め 尚当日の入賞者には、当大社宮 今年の団体参加数は十四チー 合計二〇四名。

、

加藤末男(津屋崎中学)

母親はそのあいだ、じっと克忠ることにした。

熱意と出場者の好意からなるもの 執行されたのも偏に、総代氏子の 会長の各質が贈られた。 成績は次の通りである。

個人の部 三位 津屋崎中学校 Aチーム 三位 玄海中学校 Aチーム 一位 城山中学校 Aチーム 一位 福間中学校 Aチーム 年

> 粧をして、調えをすまし、母屋にこりと笑い、 ちかけ)をはおり、やゝ濃目の化

むかった。

すると書院の廊をわたって、克

広島文雄 米原 花田

守

庇護を祈った。 は、仏間に進み先祖の

あさは、嫁いだときの禰襠(う 「おゝノそこもとは」

" " 広渡正通 (福間中学) 三位 森田正好 (城山中学) 二位 佐藤照和 (大島中学) 一位 釜瀬洋一 (中央中学)

し)の重代のよろい、そのよろい

三位 畑田治末 (福間中学) 二位 早川寿和 (玄海中学) 位 谷口知文(津屋崎中学) いてくる。 やくうつむきかげんに係ってある 二年

く、そこはかとない清潔さを象徴 こざす。

していた。うしろからは両親が、

""蜂須賀英俊(福間中学) 莅 位 位 天野宏明 (津屋崎中学) 花田正幸 (福間中学) 広島 新 (城山中学) 言の儀式と云ってよい。 は簡素で単純であった。むしろ無 馬の横にぴったりとついてはなれ

みな座にひそまる。

たと当惑した。

しかし熊三は克忠が乗っている 余り急な申し出でで克忠は、は

土器が手から手へ送られた。式

| | | | | | | | 五 日 表干家々元献茶式 光製油所内宗像大社秋季大祭奉仕 十三日 宗像大社国宝展大阪市 関係者献茶祭の為来社。徳山市出 四日出光美術館及び表千家 宗像護国神社祭午前十一時添行。 社 大 秋季大祭斎行 日 会 用意がなされている。 器(かわらけ)などの 身支度を整えた克忠

材機が四機海面すれすれに飛び交|発され、港はお祭り気分一色に塗 舵の腕に狂いはなく、やがて美事|る。午前十時二十分、神湊港着、 の程度の波は物の数ではない。操一の盛儀を拝観する人々で一杯であ に神郡宗像ならではの壮挙という
|阪における国宝展挨拶の為上阪す 出迎えの人々の拍手の中に御座船 は波止場に安着、祝賀の花火が連 本年の参加総数三百隻余、まざく 十 日 久保宮司 楠本祢宜大 8 の為職員四名出向。 立博物館に於て開催。

べきであろう。

りつぶされる。

務 誌 抄 めをすまし、一室へ入 央の部屋には、型の如 らりと涙を浮かべてい せ、神酒(みき)、土 チ栗や昆布を折敷にの く出陣の式のため、カ っていった。 克忠は湯殿に入り身浄 しきれず、いつしかき も心の中の悲しさは隠 おもむろに新襲あさにむかって、 と静かに語りかけた。 主屋(おもや)の中 「おめでとうございます。」

(其の二十

福田長庵 章浦柴舟作

のであった。 る。あさは夫の出陣を察していた 打ったように掃き清められていは何も言ってくれなかった。 帰宅すると、即内は限なく水を 上 (-)忠に顔をむけていた。しかし克忠 では を見守っていた。 克忠はすぐ起った。 あさは折々俯し目をあげては克

顔を作り夫をむかえるあさの姿は いたいたしくいじらしい。克忠は「折って克忠殿と呼びかけた。 うっすらと化粧をし、わざと笑 「尊氏殿と同道上洛に決定したわからぬ。しばしの程考えてやっったく暗中模索、それにこの熊三 る。 ふと顔を見たが誰であるかよく どのように状勢が展開されるかま とその時、一人の男が腰を低く

へと駒を進めたが、これから先、

思わぬ供を連れ、克忠は許勢城 いささか安堵した。

と、丁寧におもてを下げながら賊(やまがつ)ではないか。 共に野駅けをした時、現われた山 昨年の春、城主許斐三郎康氏と ら、彼の心中を捉えることは未だ 出来なかった。 なる山賊、なにを考えてのことや 館門(たちもん)にたどりつく

皆の者、この男は熊三 忠をむかえた。 家来達は主 (あるじ) っている。 にけげんな顔をして克 ついて来るので皆一様 **克忠と一緒に変な男が** 

家来が克忠の到着を待

と、もつすでに御供の

申し出でるので、連れ と申す者だ!さきほど 我が屋敷に参り、 て参った。仲よくして 同道

じぎをして同意を求め 態三はびょこんとお

やってくれ。

した。あれ以来そなた様が気に入 毛皮の胴服を着た山賊は、にっ ヘー、昨年は大変御無礼をしま 味方が一人でも多くなれば心強く 笑い、熊三の肩をたたいて仲間の 感じたのであろう。皆にっこりと 兵達は一瞬だまりこんでいたが、

下の白い襟元が、 肌 着 だけでな ましたが、わしは熊三と申す者で 忠が来る。<br />
赤草にもえぎ縅(おど りなんとかおやくに立ちたいと日 夜考えておりました。申しおくれ 中に入れた。 許斐城主康氏の館(やかた)に向 った。 克忠はこの情景を見ととけると

おり、馳せ参じました。何とぞ御 御出陣の事を聴き、山よりかけ 致しました。」 「御苦労宜敷くたのむぞ」 尊氏殿に同道上洛の諸準備完了

つめていた。 城主康氏はじっと克忠の顔をみ (つづく)

ようとしない。余りにも真剣に哀

願するので、遂に隊伍の中に入れ

金曜日

り宗像大社清明殿に於いて宗像会

れを了承した。

なおこれまで宗像郡町村長会事

に推挙することに満場一致で決定 老力丸健象氏の両氏を当会の顧問

宮司久保輝雄氏、並に宗像郡の長

ニッサン・スカイラインの巻

|の前にメーカーは戦々兢々として

ある。

と云う会社なのである。恐い筈で 高が日本の年間総予算より大きい

昨今、通産省は自動車業界二社

話

題

の

新

車

をみる

(盂)

る。何しろGMの年間売り上げ

イスラーは虎視眈眈と狙ってい

十月二十六日土曜日午後一時よ | むことに決定され、宗像大社もそ | で当日の理事会に於て、宗像大社

機関誌宗像は社報宗像と合併

総

開

か

る

1 日

十日までで主なる出展宝物は国宝

期間は十月十三日より十一月三

も一人でも多くの人に宗像大社の

れる。その感動の源をたどれば、

由緒を知らしめようとする配慮で一神勅が白く輝いていた。

である。

十月十三日から十一月末日まで

阪

市

立

博

物

館

でル

# 宗像大社 国宝展大阪

で開

### より大阪城内の大阪市立博物館 で、当社国宝展が開催されてい一が城内で行なわれる年中で一番人一抱いた同じ感動を吾等に与えてく 大社国宝展に続いて、十月十三日 星居前出光美術館に於ける宗像 阪城まつり、菊花展等の各種催しる。そして今ここに吾等の祖先が | すめられていたもので、会期も大 | 面が否葉が勾玉が光り輝いてい 出の多い時期を選んである。これ この国宝展は昨年より計画がす一ピンクの色調に統一した室内に鏡

文 大阪市 宗像大社 宗像神社復興期成会 日本経済新聞社 大阪市教育委員会 接 催

化

の意義を記した るはこびとな に宝物を拝観す 解説を読み次々 並に沖の島宝物 入口で当社由緒 展観室に上ると

約三百点、重文四十余点となって いる。また主催、後援は次の通り ボスター約七千枚を周辺都市に貼 あろう。このため、関係方面では 事ができる。案内の矢印にそって ると先ず沖の島の全景写真をみる 数は五万人近くに上るであろうと ている。博物館の話では拝観予想 布し宗像ムードを関西一円に高め した大懸垂幕の下を潜り館内に入 博物館玄関の「玄海麓の孤島、 宗像大社国宝展」と大書 二館三部屋の大 のは、驚くべき秘宝から日本の古 併せて当時の対外文化交流の事実会者が見える。 代祭祀とその信仰の実態を探り、 大阪市立博物館長平山敏治郎氏

る。全体を淡い

ります。なお、この展観の実現に一ことを感謝します。 よすがとしたいと念ずるものであ をも尋ね、日本古代史の謎を解く には、宗像神社復興期成会々長出

光佐三氏の多大なお力添えを得た

宗

像

高

校

新

宗像伝説

其の八十六

築 校

工 舎

事

進 む

郁 کے 秋 の 香 ŋ

馥

### 表 Ŧ 家 献 茶

はるかなあたりに「天孫奉助」と十一時より、宗像大社に於いて盛 仕献茶祭は、去る十月五日、午前 大に行なわれた。 飾る一大行事である表千家家元奉 宗像放生会と共に、宗像の秋を て、静かに昇殿。

社伝世の宝物類を加えて展観する「早朝七時頃、出光興産(株)、同 |された祭祀遺宝を中心に、宗像大 | りとした上々の秋晴れとなった。 談「このたび沖の島の国宝に指定 も、当日にはすっかり恢復、から 中、もう境内の遠近に晴着姿の参 門会、神社関係者が準備を急ぐ 前日まで崩れ模様であった天候 茶、拝殿中央白木の台子 主の祝詞奏上、次に献 に据えられた風炉の前に

タクシー、乗用車、一般参拝の諸 現して以来、本年で七回目、西日 かな色彩のコントラストが神さび 車等で、境内は賑ってくる。拝殿 式参列の人々を乗せた貸切バス、 いる。定刻に近づくにつれ、献茶 っかり親しまれるところとなって 会はもとより、一般参拝者にもす 本随一の茶会としてしられ、同門 主の奉納により昭和三十七年に実 この献茶祭は、出光興産(株)店 つ晴着姿の女性で埋り、その雅や の廻りは美しく咲いた花壇と見紛

事総会を終了した。 から意欲的な発言が行なわれ、無 以上四時間余にわたり、各会員

もと、祭典開始の太鼓が轟く、一 宗左宗匠、九州同門会高弟を従え 者一同管座、千百余人の参列者の 店田中丸善八社長を始め、他関係 定刻午前十一時、表千家即中斎千 出光興産出光佐三店主、玉屋百貨 早四十八年を経過し既に老朽改築 の段階に至っている。 大正十年に<br />
建設された校舎は最 昭和三十六年に、同校五十周年

まず炭斗をもって炭を直 まもる。 集中し、その一挙一動を をくい入るかのように見 参列者一同の目が一点に 宗匠が端坐する。

がたてられ、神前にお供 一時間余りの静寂が流れ 供えされた。 薄茶がたてられ同じくお えされ、次に銀の茶碗に される。金の茶碗に濃茶 し、極自然にお点前がな

にさくやき合う。 が様々の感銘を受けた様子で互い あちこちから溜息がもれる。各々 一方、午前十時より斎館大広間に

北九州福岡一円の同門会が参加 祭 学校の前身は宗像中学校であり、 らゆる方面に大活躍している人材 今までに多数の卒業生を社会に一記念事業期成会が結成され 全 面 改

問緊張の中、修妆の儀に続き、斎 ちらも席順を待つ人でいっぱい、 会による副席が設けられたが、こ | 第一期工事普通教室第三棟が、北 於いては出光興産(株)による副 席、清明殿に於いては表干家同門

事の着工が実現し、昭和四十年に 当局を動かして四年計画によるエ の熱意と努力により、文部省、県

時に弘治三年七月七日、逆賊多

つことにきめた。

夜もかけ兵達も深い眠りにかけ

いなか作戦を練ったが、夜間の決

これを知った尚持は今攻めるか

戦は利あらずとみて明朝むかえ討

同期成会役員は勿論、会員諸氏

社長岡崎春雄氏、宗像郡出身)の



であった。 し、延々午後四時過ぎ迄続く盛会 特に祭典終了後は一層その数を益

引続き第二期、第三期と工事は順 手により進められ、昭和四十一年 六月に第一期の工事が竣工した。

場は約五千坪であったが、旧校舎

解体のあかつきには一万一千坪に

まし、戦勝の確 明るく輝きを の光もひときは にぬがわれ、星 暗雲がにわか ちこめている と、空一面にた 像宮を選拝する

部食堂)とした四階建鉄筋高層校

た。

し、右左交互に一階をピロー(一 中央に三間の大廊下が東西に縦貫 築が完成するのであるが、同校は

の守備に向っ ばし、許斐城

朗党に激を飛

家老占部右馬介尚持は直ちに一族

った御神託だ!」 神の神の御声が聞える。 っている頃、尚持の耳には宗像大

「たしかに我が軍に御加護を賜

尚持は、はっと起きあがり、宗

舎により形成される。従来の運動

(写真は宗匠のお点前)

ックと称す カイライン タイル、ニ るニュース 回はエアロ に移って今 ・ダイナル さて本題 では考えられぬ程大きく、広く、 300 뺎と、旧スカイライン 室は全長1775㎜、全巾1 より135째、全巾が100 加長く、全高 2 0 加低く、車 であるが、車両寸法は全長が旧型

| 云われる GM、フォード、クラ | 似 た 車 で 旧 型 とは金然違った | 付けシャシー関係の給油期間を六 | を是非そなえて欲しいのである。| そしてアメリカビックスリーと | に、 総 体 的にはブルーパードに | 式プローバイガス選元装置の取り | 倒なのである。この為にマスター タリア等の例を見ても如実な事で 介しよう。フロントピューはセド について紹 リック、リヤビューはローレル

プレーキの採用、デュアルリター 長くなっている。前輪はディスク

長閑な田園風景のガタガタ道路を一この事はフランス、イギリス、イ

どそっちのけで全面広告を載せ、

っ取られる事になるからである。 事、下手をすると外国の資本に乗 導と称する介入で 集約 する事に 社をこの線に持ち込まんとして指 論を三社論に幅を広め、現在の十

者の胸をおどらせ、新聞は記事な

型車は発売 のように新 ある。毎日 花形産業で 業は現代の

されて、若

やっきとなっている。無理からぬ

(3)

発行の社報宗像タブロイド版に合

また従来A五版で年四回発行

ES:

事

山口節郎、古野久喜 立石 昇、麦野時雄 谷口進、的場點 尚山徳七郎

また新会則によると、理事会の

会の機関誌としての記事を盛り込 併されることになり、今後は宗像 されていた会誌宗像は、宗像大社 織が実動的な形態に改められた。 十名以内に制限され、執行部の組 計画して行うことになり、理事は 事業目的の達成は理事会において た。特に会則が大幅に改正され、 入ったが、中でも今後の会の運営

れを委嘱することになっているの 推挙により顧問をおき、会長がこ

エンジン自由化と云う関ケ原の役 るような猛スピードで走り去る。

一方では三年後に迫った自動車

昭和43年11月

については大きな改革が行なわれ

通り新役員が選ばれた。 社務本局内に移された。 務局にあった事務所は、宗像大社

次に役員改選が行なわれ左記の

会

長 井原元彦

理

事 室津良教、小田憲丸

副会長
井上陽之助、葦津嘉之

に続き、議長が選出され、議事に

会長の挨拶、出席会員自己紹介

の設備のとくのった教室で、勉学 教室、化学、地学、其の他最新式及び、宗像ならでは出来ぬ大運動 に二、三年生が新校舎に移り特別 で、全工事の八十%を完了し、既 調に進捗し、本年九月二十五日に の司祭により行なわれた。 第四期工事の起工式が、宗像大社 に励んでいる。 完工した第三期工事迄

年度第二期工事、特別教室棟、四 部、図書館、視聴覚教室等で四十 十二年度第三期工事、普通教室第 明工事、普通教室第三棟、四十一 り晋工の第四期工事は第一棟管理 一棟、特別教室棟である。本年よ 既に完工した校舎四十年度第一

されてより、同会先輩、関係諸先

五十周年記念事業期成会が結成

やれ。」 止千方、目に

と尚持は訓

ものをみせて 攻めるとは笑 してこの城を 大友方に加担 「多賀兄弟

場となるはこびである。

四月発売以来十一年間もモデルチ イメージを与える。 スカイライ | 万キロから十万キロに改良、ダイ が取沙汰されて来たが、三十二年 ンは何年も前からモデルチェンジ れていた事になる。OHC8 つ売れたのは、それだけ性能が優 ェンジを行なわずに来て、なおか 8馬力エンジンは旧型そのまま 多項目にわたる安全設計とより豪 ヤフラム式クラッチバネの採用、 する日も遠からぬことであろう。

ア、エンジン、トランクと別々な とスタンダードの二車種、計十一 ゴン型一車種、バンがデラックス タクシー仕様の車種が二車種、ワ 為にどの鍵がどれなのか選別が面 このニュースカイラインに望みた 車種である。 ークラッチ仕様の車種が二車種、 種、スタンダード型が一車種、ノ る。車種はデラックス型が三車 華な印象を与える事になってい い事が一つある。それは鍵がド あろう。」 っているのがわかった。 「さすがは多賀殿、先乗り致せ

校PTA会長)、入江英雄(同 会長に花田新太郎氏(現県議、同 山本三吾氏の後任)が就任し、学 に井原元彦氏(現福間町長)、副 綜合印刷

宗像大社御用 所 ΕD

このような変転きわまりない時

頃は戦国時代、世相騒然とし

日は西に傾き、空には雨雲がたち

畦町 河

原合

戦

異 聞

九州市八幡の岡崎工業株式会社(|四年に体育館兼講堂が予定されて 以上が完工されて同校の全面改 せた。 の居城、許斐城を奪わんと攻め寄 助勢を得て、手勢を率いて大宮司 多く宗像大宮司家は神郡宗像の統 ってきた。そこで 夜 営をするた 賀隆忠、彦四郎の兄弟は大友氏の 宗像大宮司に対して叛旗を翻えし 増してきた大友氏に追従し、主家 作守隆忠は、大内氏滅亡後勢力を 世に、宗像大宮司の家臣、多賀美 て、この宗像の地も外部との攻防 こめ、兵士にも疲労の色が濃くな この事態を聞いた宗像大宮司の

陣備えであった。 をとった。

しかしその構えは固く難攻不落の め、西郷川の支流にある河原に陣

達が、将来社会に出て大いに活躍 生方の熱意と努力により今後学業 に、スポーツに研鑽を重ねる若人 戦の態勢にとりかかる。 示をあたえ決 るが一番よかろう。 おそらく逆賊多賀一味はこの畦

像宮を伏し拝み、関の声とホラ貝

を整えはるか完 尚持は、早朝兵 の御加護を得た あった。この神 兆を感ずるので

せ。 通り、待伏があろうとはつゆ知らに染まり、敵は右往左往に逃げま るととうであろう。こちらの意の じっと敵方の動向を見守った。す 町街道を進んでくるに違いない。 我々は城を出て本木郷に陣を構え 指示をあたえた家老尚持は、 「早速敵に知れぬよう布陣を致 におこる関の声に周章狼狽、どう めこんだ。 を吹きならし怒涛の如く敵陣へ攻 れで、いまだ目もさめず、にわか にか 武 装し 布陣をしようとした 不意をつかれた多質勢は旅の病

将、山田豊後守孝幸は自分が率い 打ち取られ、戦いは終った。 逆賊多賀に味方する大友方の大 させ、様子を伺っていた。すると ず、隊伍を組んでやってくる。 と、多賀を先兵にしようと策を練 る大友の手勢に損害をあたえまい 血気にはやる兵達をじっと我侵 とうばかり!! が、機先を制せられすでに勝敗は はいさぎよく真只中に切り込んで つく者あとをたたず、川の水も皿 決せられた。次々に倒れる者、傷 遂に覚悟をきめた逆臣多賀兄弟

る残敵を眺めつつ意気揚々と引揚 きたが、その甲斐もむなしく首を 尚持の一行は、

堵の胸をなでおろすと共に、宗像 許斐城にたどりついた一行は安

等が畦町部落にさしかかった頃、

ば我が殿(大友氏)もさぞ喜ぶで

と多賀兄弟をおだてている。彼棒げ神郡宗像の団結と繁栄を誓い

H

第 95 号

詠

光佐三一問一答シリーズ

27

### 宗像大社献

## 俳句作品集 生

朝寒や羽織の上にちゃんち

アンプルの首折る音のする 秋祭の旗の古びて懐しく やんこ 津屋崎 久留米 白石百合蔵 篠田太郎坊 ども、現実に企業を動かし、経営

大

木原ふさ子

出帆旗かゝげて秋の雨けぶ 遠き世に栄えし町並秋燕 秋風や音なく落ちし棘の実 幸福ははかなく脆し萩の径 井 井 司 永島 吉田 吉田 哲夫 杏子 和子

う。それだから資本家の資が使用 者の使に変わったのじゃないか。 と、大局的に論ずると、もう日本 大問題となるだろう。今の労使対 トがエンプロイヤーに変わったら 発音だから、その違いに気づかな たまたま日本語では資と使が同じ には資本家はないと言えると思 いけれども、外国でキャピタリス

師を呼びて同窓の秋童心に 鰯雲川中島や棒倒し 田 田 熊 熊 小野 小野かをる一解体され、多少の例外はあるけれ 淡坡 んだよ。ところが戦争後、財閥が るだろう。 昔の会社での対立は労資だった

とたたかうのは無理もないがね。

ペンダコの輝く手にて木の 津屋崎 鹤 美津男 鴻浪

宗

実舞う

雨の虫想い出の坂石だらけ 青年の鼓動一気に稲を刈る 津屋崎 勝田 凡石 光 れに向かって進んでいく場合にとき、危険を伴うから開始の規模は 企業が将来について計画し、こ

場と化す 酔えば寒し河はネオンの墓 かくおかしやすい大きなあやまち とは、小規模にものを考えてそし て大きなところを見失なってしま

の二つの異なった事柄を混同して のごとを実行に移さないかという 関が明治の初期に行なったことが 小さくものを考えるのと、小規模 ことは、人間というものはとかく ばならないのは当然である。 常に大きいならば、それにふさわ でものを開始し始めるという、こあったかというと強力な産業化し しい、非常に大きな利潤がなけれ なぜこのような十分な規模でも 考えられる。この明治の初期の財 ある。 対してこれを押しつけるいき方で 来の絵図、というものを、外界に た経済を夢見ていたに違いない。 閥の、将来の一つの計画図が何で この一つの例として、日本の財

むろんおかす危険、リスクが非

は、非常に大きく考えて行くべき 小さくしていく、しかし、将来に

である。

**歴史をもった、そして日本独特の** 

ーケットの形、消費者の形、また

第二の方策は、企業家自身の将

ついての計画というものの考え方

いるからだということで説明でき。そして実際にそれをあてはめた土

台というものはどういうものであ

ことは、非常に勇敢であったと思

実存せず、したがつて将

なるほどそのような面もあるけれ一立とは、エンプロイヤーとエンプ ロイーとの喧嘩ということだね。

合、いつのまにか、資本家の「資 思う。その証拠に、労使という場 資本家に相当する人はもうないと それは例外であって、日本の大会 の大株主が日本の経営を支配し動 て、財産を残せなくなった。一部 累進課税で金持は税金をとられ あり、けっして資本家がないとは それこそ現代的意味での資本家で 階級であると考えられています。 を支配しているのは少数の所有者 社には、マルクスの言うような 大体、分配が公平になってきた。 言えないのではないでしょうか。 かしている面があるというが、 が使用者の「使」に変わってい 出光いや、日本では戦後、 る。資本家の搾取、キャピタリス だ。従業員が今日は労使の「労」 めから使用者だから、この使用者 うがないね。もっとも、役所や銀 には模擬戦争のように思えてしよ ければならないのか。どうもぼく てくる使用者と、なぜたたかわな 者が、今度は自分らの階級から出 トの搾取に対してたたかってきた ん昨日の同僚とたたかうことにな 部長になれば、使用者側になって としてたたかっていて、翌日、 とを指すのだろうが、その人たち ば、会社の社長・重役とか部長な らぬと思うね。 これは意味をよく考えなければな 行から天下りしてきた人は、はじ は今では従業員の中から出てくる 大体、使用者とはなにかといえ

う考えられないと言えるのではなしそこにある無計画性を資本主義経 も、大会社では例外を除いて、も 現代的意味での資本家というもの このように見ると、質問にある 笑 いかな。 23 資本主義経済におけ

るか どのようにして克服す る恐慌とか失業などは

ものごとの実施を開始すると

産関係と生産諸力の矛盾)が激化 格と生産の社会的性格の矛盾(生 がなく、とくに経済が高度化して 生産計画を立て、物を供給するわ 生産過剰となる。それはときに恐 くると、生産手段の所有の私的性 けですが、経済全体として計画性 の経営者が、或る見通しをもって して、結局、供給が需要を上回り 質問 資本主義 経済では個々 商売=高人の使報酬 使命 争するところに経営のむずかしさ | 自分が独断でやってよいか、上役 な。波の上り下りによって自由競 とを忘れていた結果じゃないのか て、鍛練された経営者をつくるこ
人が信じられるかどうか。そのく

の問題の解決のためには、生産手 済では避けられないものと考え、 スは、これらの現象は資本主義経る。そして能率が上がらなくなるいって、はじめて立派な強い個人 な社会的損失をもたらす。マルク ら、人間としての意欲がなくな に、人間を自由に働かせて育てて 乱に陥れ、失業・倒産などの多大 慌という爆発的な形で経済界を混 ということだね。

による経済計画化の必要性を主張|枠の計画は国がやって、その中で|れを反対に、官僚統制のように徴 段の社会化、つまり社会主義経済 済の無政府性と呼んでいます。こ | も、末端に至るまでの細かい計画 隷となって非能率になる。大きい で動くとなると、組織と規則の奴

ても原始的ではない。非常に長い であったと思う。 かも封建的な、後進的な社会機構 ったかというと、農業中心の、し しております。 ただ日本の場合、後進性といっ ような大規模のものでなくてもよ わざるを得ない。 ジョンは、この明治初期の財閥の いが、必ず将来の経済の形、マ そこですべての企業の将来のビ

経 営 کے P F は K 何 ラ ッ か カ I

業経済というものを考えたという にもかかわらず全然新しい形の産のでなければならない。 ている一つの素地であった。これるということを知っての上でのも ようなものが、すでに相当固まっ 社会機構、考え方、道徳といった 技術の形、といったことをある程 度想像して、こうあるべき形にな 将来というものはまだ

解決されるとお考えですか。 のもつ無政府性は、どんな方法で ところで、店主は資本主義経済

ところに、自由競争の進歩がある そ、そこに締りが出来、折目が出 秋冬の気温の上り下りがあってこ 国、南洋ボケの見方だね。年中常 けるなんて考えることは、常夏の なにをしでかすかわからない。 夏のところは南洋ボケする。春夏 だ。景気がどこまでも上昇をつづ れがぼくの言う「尊い授業料」

するから、人間が勤勉となりまじ めになる。逆に国営などになった と思う。このような自由競争を 社会の進歩があるんだよ。 このことはとても大切なことだ 場面に適応して自由に判断できる に相談すべきものか、その場面、

権限の規定などなくても、これは らいに人間のあり方が違うんだ。

> わされているだけだから、非能率 で汲み出されて、組織でつなぎ合 の水質で、経営管理というポンプ あって、これが人による経営なん 水がおのずから湧き出ている形で に自発的に働いているので、地下 は、社員が規則や組織に縛られず だ。それに対して出光のあり方 プで汲み上げているようなもの 員を働かせるのは、井戸水をポン として、いわゆる経営管理という み上げるか、おのずから湧き出づ

る。そして最後は海抜一、〇〇〇

らいついたら絶対に離れない。

今様浅右衞門

の幽霊だと土民は思っている。 だと答えたという。この幽霊の話 染病が流行って多くの人が死ぬん

さて、パナロンより北上するに

は事実あったことで、オランダ人

ウ(幽霊)を見たら、その年は伝

このことを村の土民にはなした

松

脂

で力の弱い鳥合の衆だ。

で、それが自発的に自噴して働い

出光の水質は和・一致団結の水

い経営となっている。要するにマ

る。

るとは、余程の松と、松脂とであ

場がある。松脂だけで工場ができ

達する。このすこし手前に松脂工 米のタワル湖畔の町、タケゴンに したがって、だんだん高地とな

れを予知することはほと 方によつて将来の形をあ れだけに、今日の努力に んどできない。しかしそ 来の形というものは、ことこの国にいっても真に独創的な ができるのである。 る程度つくつていくこと よつて、今日のものの見 に応用するということには、相当

企業家はいままでまねごとをして 私の考えるところでは、日本の 模倣にもリスクがある よくわかる。出光商会時代に、ぼして、しかも局合の衆といわれる、 必要なんだ。 それは出光の形を考えてみると そして 大組織・大人数の 非能密

ていけば、人間は死んでしまう。

|のだ。常夏の国の事業界だったら | をおかさないのみか、苦労人とな 来る。景気の波を乗り越えていく一するとその人は、経験を積んだ立 の過ぎた保護をいつまでもつづけ に酔いしれて、そこに政府が程度 今日の混乱も神武景気、岩戸景気 はこのしくじり、失敗を「尊い授 となって、事業の進歩がある。こ | を与えて、自由に働かすことにし こそ人間が鍛練され、真の経営者 違いだよ。好況・不況があるからくの自由の犠牲になるのかという 乱なしに行くものだと思うのは間 出光 事業の経営がいつも波 | くは独立して自由を楽しんでいる | 力の弱いものになってしまう。人 派な体験者となって、二度と過ち して同情の目をもっていたわって にある。こういう行き方を役所の 業料」だと言っている理由もそこ | だ。しかも水質は一方が対立闘争 り、力強い経営者となる。出光で けっしてとがめなかった。そう 努力して失敗しても、ぼくは親としっなことばかりを手段として社 た。これが出光には権限の規定が 疑問をもった。そこで社員に自由 が、店員は自由を束縛されて、ぼ じる。しかし熱心に誠意をもって すと、経験のない若い社員はしくる、かの違いで規則や組織を中心 ない、ということだ。自由に働か

ところで経済計画化といって | 致団結した力を発揮すれば、これ あるということだ。こういうふう ような人間になってくるんだ。 これが、権限は各人の心の中に

であって、非能率なものになって は、法律・機構・組織による経営 ルクス主義でいう経済計画化など ているのだから、少数精鋭の力強

が、俗にスマトラ松と呼び、沢山

運ぶ牛馬の列が見ものである。車

に幌をかけ、松脂と人間が乗り、

自由に楽しく働けるということが一に入り細をうがって権限を規定し

出光の現在の形がこれなんだ。そ わゆる少数精鋭主義の形であり、 ぐらい強いものはない。これがい が出来る。その個人が集まって一 るのだよ。 はじめて能率的な人間活動ができ のでなければならないね。それで 端までの自由を害しない程度のも 要だが、それはけっして個々の末 しまうんだ。 人間が働くには、大きな枠は必 (以下次号)

の牛車が、のろりのろりと列をつ

いっても日本の二倍はある。ラム

バハンを過ぎて目的地のビルエン

にできるものではなく企業家がこ 生活水準にしても、これらは自然 れをつくり出していくものである たとえば市場にしてもあるいは した国において十分試験し、そし うものが出ると、それをつくり出 り、新しい技術、新しい製品とい 的な進歩の 差 異 というものがあ 出したことを、すぐまたそれを他 である。それどころか、人の考え の能力を必要とするものである。 ものというものは、まことにまれ て役に立つか立たないかというこ 相等しい国同志であっても、技術 過去においては発展段階がほぼ

強すざるという気がする。 いたということについての意識が うことが可能であった。ところが 現在の世の中では、交通も通信も 非常に発達してきている。 とを見た後でこれを模倣するとい (775)

るのに、井戸を掘ってポンプで汲 くる。たとえば地下水を汲み上げ の差が、そこにはっきり現われて や組織を中心として経営するのと を中心として経営するのと、規則

宗像藪庵先生百話

方 南 華やかなり

太

郎坊

および、ビルマ・タイ・ベトナム 違い葉が三本あり、高さ二〇米に ン島の ベンケット州バギオ 地方 て、月を戯いて眠る。こういう光 河畔に隊列を止め、川水で炊飯し る。カツシャ松は、日本の松とは ベンゲット松がある。これはルソ 景を見ていると、せっかちなわれ 泊らねばならない。夕方になると | 首斬り後右衛門に劣らぬ沢山の人 に多いので、バギオ松とも呼ばれ 南方にはメルクシー松のほかに ら、満州から南洋へまで流れて を飲みして、人生を噛みしめなが の血を吸っている。人を斬り、酒

ら、あれは出るんだ。あのハント く、ベトナムでは造林されている つぎつぎと 襲をひり かけたよう 松というのがあり、十人ぐらいが ところが多い。このほか、ダルマ 台湾の台湾松と同じで、成長が早 松は、南支那・ベトナムに産し、 に産し、南洋諸島にはない。馬尾 を運んで来たネシア人のバブー ペニスを拭き拭き出て来た。お茶 事はあるが、なかなか出て来な 生に泣くも笑うもすべての結論が ったとか。このような豪傑は、今 女中)が、待たせた片割れらしか 待たせしました」といいながら、 い。暫らく待たされたあげく「お ねて行ったところ、奥の方から返 が何か用事があって、屋休みに訪 こんなのがある。今村という参謀 この踊りの中に含まれている。 たるや表現の言葉を知らない。人 この人の、人生に徹した笑話に

くって進んで行く。スマトラ島と一通訳から死刑執行まで一手に引受 の脂を出す松である。この松脂を一ていたが、なかなかふるった男 水牛数頭に曳かせる。この十数台 ばい」と自分で先に判決を出した に着くまでには、十数日を車上に一ない男であった。この男の軍刀は この松はメルクシー松である 男で、名を水〇某といった。軍政 けた。最後まで人のめんどうをみ という。人を恐れぬ男であった。 て、「こりゃあ、五年ぐらいです で、通訳をしたあと裁判長に向っ 部の裁判所でネシア語の通訳をし 松脂を排出している。この松脂は てやるという囚人にはありがたく の人は、以前は満州浪人もやった 時に、有名な南洋浪人がいた。こ て通っている。この蟻は一ぺん喰 の松脂の機を赤蟻が血の列となっ いつ迄も軟かく弾力性がある。こ に、根もとに、ものすごく沢山の わたしがスマトラの某地にいた プレッシさんは家に帰れば何事も ていたそうだ。 なかったかの如く、妻子と冗談を いる籠の中にばさりと落ちる。オ 斬られ、首から上は前に置かれて の上に落ち、一瞬にして、ちょん かされると、研ぎ登ました重い刃 も道具は軍刀ではなく、ギロチン 等変ったところは見受けられな 六十五歳の老人である。三六〇ド 門はパリー刑務所の首席死刑執行 まじえ、おいしそうに夕食を喰っ と呼ばれるもので、横板の上に導 四〇〇人である。はねるといって い。かれが今までにはねた首は、 ひごろは普通のサラリーマンと何 ルといういい月給を貰っており、 人のアンドレ・オブレッシという の世には生れて来まい。 物が上からスライドして来て、首 外国で現在一番の首斬り浅石衛 (以下次号)

#### 音 0 な お L 秋 方 吉

吃

り、過去に於て尊い人生を死んで 国の私立矯正所は数十カ所にありる。克服するぞと言う不動の信念 のできない深刻な悲劇の記録であ 実際体験しない人たちは到底理解 交で苦しみが続き、その苦しみは ますが、今の勤労者は全治するま
をもつ事から始めなければいけま 事実を雄弁に物語っています。全 だけでなく社会に出ても電話や外 や就職、口答試問などで拒まれる る方面であまりにも大きい。入学 吃音者が受ける打けきは、あらゆ 清算した吃音者の多いことはこの で多額の金を出して矯正を受ける一せん。次に吃音は一つの習性です 先ず第一に完全に吃音を克服出来 法を御紹介する次第です。 悩まされた一人として、私の矯正 力すればなおるものです。吃音に しかし、この吃音(どもり)は努 っくらであります。 状にあっては、吃音者の前途はま 言って他に社会保障制度もない現 険の適用もつけられず、それかと 経済的能力はありません。健康保

うになれば次第に吃音は解消する み逆さまにもスラスラと読める上 り現象をもたらすものだと考えら うに練習する事が大切です。易し れますから、立ち止りをなくすよ えがまとまらない時に於ける思考 文字が読めない時とか、自己の考 大きな声で繰り返します。吃音は い文章から次第に長文のものに進 の状態が言語発生系統に立ち止ま いて「おはよう」「うよはお」と よう。早朝と就寝前に「おはよう 習と努力がなければいけません。 から、この習性を矯正する為に練 ここに易しい練習法をかかげまし 一「こんばんわ」の言葉を紙に書